

第4回：福原家と村岡を通る古道

本日は、まず村岡に多くの事績を残された渡内の福原家につきお話ししようと思います。

福原家 もとは平姓の三浦一族で三浦郡に住んでいました。先祖は、佐原八郎為連（さわら・はちろう・ためつら）とされ、その子が母方の福原姓を名乗ったようです。

室町時代初め五代目の時、上杉禅秀の乱が起こり、渡内に移り住んだといえます。以後、小田原北条家・徳川家に仕え、渡内村の名主を務めた旧家です。

天正18年小田原落去の後、徳川家康が玉縄、村岡辺りを巡視した際に、福原孫十郎が案内し、福原家で休息しました。この時、お茶うけに「梅干し」をさし上げたという。これ以来「梅干し」を徳川幕府に献上しました。

江戸時代後期、福原高峯は泰平の世をもたらした徳川家康への報恩の念から、家康と関わりのある名所・旧跡を書き留めた「相中留恩記略」全25冊を10年有余の歳月を経て編さんし、徳川幕府に献上しました。

この本の大きな特徴は、江戸の町絵師・長谷川雪提の大変写実的な挿絵があることです。福原家「名主左平太宅」近辺の挿絵が三枚あります。中央に福原家、右に二伝寺、左に日枝神社が描かれています。

旧福原家の長屋門が新林公園に、「相中留恩記略」に描かれた旧福原家・屋敷構えとともに移築復原されています。長屋門とは、門の両脇に部屋（長屋）を備えた建物で、倉庫や納屋や馬屋にすることが多いといえます。

寄棟造の茅葺屋根で、江戸時代後半の姿を現代に伝える貴重な歴史遺産です。市の文化財（建造物）です。

小池家 次いでですが、新林公園には村岡柄沢の旧家、小池邸も移築されています。

江戸時代後半に建てられたもので、二間半の式台と立派な座敷を構え、名主の格式をあらわしています。寄棟造の茅葺屋根・土壁・石基礎で土台は栗材が使われています。市の文化遺産です。

小池家の先祖は足利尊氏に仕え、江戸時代になって柄沢に移ったと伝えられています。江戸時代から代々、柄沢村の名主でした。

二伝寺 浄土宗です。開山にあたり、福原左衛門忠重の援助があったそうです。

玉縄城主初代北条氏時の発願により開かれました。北条氏時は、小田原城主初代北条早雲の子息です。

玉縄城から尾根つづきであり旧鎌倉街道に沿っていたことから、砦の役割を担うために寺を創建したと伝わっています。このお寺で出家した江戸時代の高僧播随意白道上人は福原家から善行の松本家に嫁いだ娘に育てられたと云います。墓地には、福原家代々の墓があります。

日枝神社 もとは、福原家の裏の宮山にありました。平良文が比叡山麓坂本の日吉大社より、屋敷の守護神として日吉山大権現（大山咋命）（おおやま・くいのみこと）を勧請しまし

た。

福原氏五代目が村岡に来たときに再建し、合わせて平良文を合祀しました。徳川家康もこの宮山に登り、玉縄城を遠見したという。宮山は、現在は本在寺公園になっています。

次に村岡を通る古道についてお話しいたします。

12世紀末に源頼朝が鎌倉幕府を開くと、ここ村岡は各地から鎌倉への道筋にあたり、上の道、浜手道、鎌倉街道を多くの人々が往還しました。同時に、鎌倉の衛星化が進み、政治、経済などで統制が強められました。

また、この地は鎌倉の北西「天門」方向にあたり、鎮（しず）めのための鎌倉系の神社、仏閣が開山されました。

鎌倉古道「上の道」 鎌倉化粧坂方面より柏尾川を渡り、兜松、御霊神社の裏を抜け、貝殻坂、渡内、柄沢を通り影取に通じたと言われていています。北に向かうと、武蔵府中、上野、信濃となります。

元弘3年（1333）この「上の道」を上がってきた新田義貞は、鎌倉を攻め入りました。

浜手道 新林公園の西側を南北に走っているのが浜手道です。北上し、柄沢神社を経て鎌倉古道「上の道」と一本になります。新田義貞の浜手軍が、この道を通り鎌倉に攻め入ったのでこの名がつけられたと言われていています。

鎌倉街道 源頼朝が三嶋明神を勧請し、追って源実朝が感応院を創建し通ったのが鎌倉街道の起源と言われていています。道沿いには、この他にも弥勒寺、法善寺、船玉神社があります。

北条軍道 小田原から大鋸を経由して、狼煙台があった大塚山の裾を通り、玉縄城下に直行する「玉縄軍用道路」があり、北条軍道と呼ばれていました。対外への北条軍の出陣は、ほとんどが玉縄城からだったと言われていています。

玉縄城は小田原北条氏の支城で、相模東部における支配の拠点でした。現在城址は、清泉女学院になっています。

早雲の道 二伝寺を東に下りた道は、北条早雲が玉縄城築城の際通った道で「早雲の道」と呼ばれています。

今回は、「相中留恩記略」を編さんした福原家や村岡を通る古道などについてお話しいたしました。